



一般社団法人 静岡県安全運転管理協会



沼津・袋井・浜松東地区安管協会の活動紹介

「交通死亡事故現場診断」を実施（令和5年8月中）

沼津地区、袋井地区、浜松東地区の各安全運転管理協会は、それぞれ地区内で発生した交通死亡事故の再発防止を期して、この8月中に、管轄警察署の「死亡事故現場診断」に参加し、事故防止対策を協議しました。

沼 津 地 区

8月24日（木）に実施された交通死亡事故現場診断に、県警本部交通企画課、沼津警察署、沼津市役所、県土木事務所、道路管理者、地元自治会等関係団体等とともに、**沼津地区安管協会事務局長**が参加（合計18人）

8月10日（木）午後0時頃に、沼津市西浦古宇地先の主要地方道沼津土肥線の直線道路において、普通乗用車同士が正面衝突した交通死亡事故（運転していた男性（77歳）が死亡）の事故現場診断を行いました。

参加者による現場诊断及び事故防止対策を協議した結果、

- 中央線の無いカーブを抜けた狭隘な直線道路で、かつ、県外者等他地区の者では前方が狭隘な道路とは判りにくい。
- 改善点として、道路拡幅の検討やガードレールの改善、カーブ手前に狭隘な道路が接近していることの周知表示の設置

など、活発な意見が出されました。

【現場診断の状況】



【交通事故現場の状況】



袋井地区

8月28日(月)に実施された交通死亡事故現場診断に、袋井警察署、袋井市役所、袋井土木事務所、交通安全協会袋井地区支部等関係団体とともに、**袋井地区安管協会（役員等5人）**が参加(合計21人)

令和5年8月18日午後6時頃、袋井市掛ノ上地先の県道袋井小笠線において普通乗用自動車と横断歩道を横断中の高齢歩行者とが衝突して、高齢歩行者が死亡した事故現場において、原因等を検証する現場診断を行いました。

現場は信号交差点に挟まれた約200メートルの道路の中間付近に設けられた横断歩道であり、現場の検証後に行った検討会では、

- ・ 道路に若干の傾斜があり、横断歩道の視認性が悪いこと
- ・ 信号が間近にあり信号に気を取られやすいこと

などの問題点があげられ

- ・ 道路標示等の視認性を高めること
- ・ 運転者・歩行者の交通教育を推進すること

等の意見が聞かれました。

【現場診断の状況】



浜 松 東 地 区

8月4日(金)に実施された交通死亡事故現場診断に浜松東警察署、警察本部交通企画課・交通規制課、浜松市、地元自治会、交通安全協会浜松東地区支部とともに、**浜松東地区安全運転管理協会（田村常任理事及び新井事務局長が参加）**（合計24人）

令和5年7月17日（月）午前10時ころ、浜松市東区和田町地先で発生した普通乗用車と自転車が衝突した交通死亡事故（自転車の64歳男性が死亡）の事故現場で、道路形態等の確認や周囲環境の確認をし、今後の再発防止を協議しました。

現場の状況は、

- 自転車進路の右方には倉庫があり、普乗側への見通しが悪い。
- 自転車側に一時停止標識が設置されている。
- 普乗進路には、一時停止標識及び速度抑止表示はない。

であり、

- 主要道路側の路面標示（30キロ）塗替え
- 自転車利用者に対するヘルメット着用啓発
- 交差点中心の十字マークの塗替え
- カーブミラーの設置
- 交差点を認識させる標示、看板等の新設（交差点注意等）

などの意見が聞かれました。

【現場診断の状況】

